

特集 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会サポート特集

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会と
サポート特集号にあたって

勝田隆¹⁾

Takashi Katsuta¹⁾

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックという未曾有の状況下において開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（「東京 2020 大会」）は、これまでとは大きく異なる大会であった。

この特別な大会において、「ハイパフォーマンススポーツセンター（以下「HPSC」という。）」は、日本選手団をトレーニングおよび医・科学・情報の面から支援した。この経験を、今後のスポーツはもとより、スポーツを通じた社会の発展に活かしていくよう努めることは HPSC の、そして、そこに関わった者の重要な使命と考える。

このような認識のもと、ここでは、HPSC の立場から「ハイパフォーマンススポーツ」の今後のさらなる推進において、共有したい視点について言及する。

一つ目は、「科学の適切な活用」に関する取り組みの重要性である。私は HPSC の「これまで」そして「今後」の取り組みにおいて、「エビデンスベース（evidence-based：根拠に基づく）」をさらに心がけることが重要であると考えている。科学的な取り組みについては、そのプロセスや結果を、「形（カタチ）」にし、「見える化」あるいは「分かりやすく」伝えることが重要であり、その際、仮説や課題、基準などの設定が鍵となると私

は考えている。また、その設定にあたっては、同質の集まりによる関心やニーズ、あるいは慣例にとらわれず、現場や他分野の専門家などの意見を柔軟に取り入れることが必要であろう。また、広く社会の声に耳を傾ける姿勢や工夫、仕組みづくりが重要と考える。いずれにしても、科学的な取り組みについては、再現性や反証可能性などに関する追試も含め、外部や他分野、そして一般社会との接点を重視し総合的に進めて行くことが不可欠であると、私は考える。

二つ目は、「他者を思いやる配慮」とそれに基づくコミュニケーションの重要性である。

「東京 2020 大会」は、コロナ禍という目に見えない相手との戦いでもあった。そのような状況において、HPSC が日本選手団を支える拠点としてその役割を遂行できたのは、メディカルや科学、運営・施設管理面など、さまざまな部署・スタッフの連携と協働があったからだと思っている。これに加え、私は、「他者への配慮」が拠点におけるコロナ対策の重要な基盤を為すものであったと捉えている。

総合競技大会では、多様な競技・種目の選手・関係者が一同に集い、大舞台（試合本番）に向け準備し、調整する。これは、突発的なことも含め刻々と変化する状況下において特に重要なものとなることは容易に予測されることであろう。

¹⁾日本スポーツ振興センター・ハイパフォーマンススポーツセンター

¹⁾Japan Sport Council, Japan High Performance Sport Center

E-mail : t-katsuta@nifty.com

HPSC が日本代表選手団を支える拠点として、その役割を遂行できたのは、選手・競技団体といった利用者相互と、HPSC の運営および業務に関わるすべての組織関係者の、「他者への高次な配慮」があったからと私は振り返っている。

「他者への配慮」は、人がそこに集う意義や価値といった本質的理解はもとより、共に同じ時間、同じ空間において「相手の顔を思い浮かべながら想いやる」建設的なコミュニケーションが不可欠であると考え。これは、インテグリティ（真摯性、誠実さ、品位）という言葉から紐解かれる行動とも換言できる。このようなインテグリティを、歴史的舞台へ繋がる時間の中で体現していただいたことにあらためて心より敬意を表し感謝申し上げたい。これは、「多様性の尊重」や「共生社会の実現」という「スポーツを通じた社会の発展」に繋がるものであると私は、捉えている。

三つ目は、「信頼に基づく情報と英知の結集」である。

信頼のおける情報を収集・分析し、それを効果的かつ建設的に活用することは、どのような分野および状況においても重要である。特に、前例のない、あるいは突発的な場面において、その重要性はさらに高まることは言うまでもないことであろう。今般の「東京 2020 大会」においては、スポーツ庁や日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会（JPC）等と連携・協働し、それぞれが有する情報をもとに日本代表選手団の支援活動に展開させていただいた。同時に、各国、地域、そして医・科学、施設管理・運営等々、関連するさまざまな分野の情報なども、これまでの信頼関係をもとに収集し活用した。

このような「情報」の収集、分析、そして活用という機能は、今後も HPSC の活動の中核に据えてさらに推進していくべきものとなるだろう。なぜならば、歴史的な「東京 2020 大会」を通して得た知見を関係者はもとより、社会の発展に有用

なものとして還元していく役割を HPSC は担っているからだ。

その役割を具体化し推進していくために、「英知の結集」は、これまで以上に重要になるだろう。

その基盤として HPSC そのものの「信頼性」があると私は考えている。

多様な情報と英知を集め、そこから有用な情報が生み出され展開されていくためには、その拠点となる[・]_・ころの信頼性が鍵となる。

以上、HPSC の立場から「ハイパフォーマンススポーツ」の今後のさらなる推進において重要と考える若干の視点について言及した。

最後になるが、歴史的な「東京 2020 大会」を振り返り、HPSC の立場からこれらの視点について言及できることはたいへん光栄なことであり、選手・関係者皆様のご努力とご協力にあたらめて深く感謝したい。地域および社会の理解と支援、そして、これまでご尽力いただいた方々によってもたらされたものであることも忘れてはならないと心に留めている。

「パフォーマンス performance」という単語は、“per（貫き通す・徹底的に）”と“form（形（カタチ）”、そして“ance（行動・状態・性質）”という 3 つの意味を持つ語から組成されているという。このような言葉の成り立ちから、私は社会の注目を集めるハイパフォーマンスについては、特に、そのプロセスや結果を「見える化」し、かつ社会の発展に資するものとして「カタチにし活用していく」努力が必要と思っている。

国際舞台を中心に展開されるハイパフォーマンススポーツが、より良き社会の発展に、さらに「役立つもの」となるよう具体的なカタチにしていくことが、今後の HPSC の運営とサポート活動において求められていく視点と位置付け、筆を置きたい。